

## 『アイディ。』

あけましておめでとうございます。  
2006年が始まりました。

昨年末、初めてのエッセイ集「アイディ。」が発売になりました。すでに続々と感想が届いており、嬉しいです。読んでくれたみなさんどうもありがとう。  
このホームページで連載してきたエッセイの一部も含め、書き下ろしの文章と合わせてまとめた一冊。小さいころから読書が好きで、文章を書くのも大好きだった私にとって、本を執筆することは夢のひとつでした。叶えることができてしあわせです。

ホームページというのは、世界中のどこからでも見ることができます。男の人も女の人も、大人も子供も、友だちも見知らぬ人も、毎日さまざまな人がアクセスしています。言葉というのは大変な力を持つものですから、このページに載せる文章を書くときにはいつも、不特定多数の人の目に触れることを考えて表現を選んでいました。そういう私なりのルールの範囲内で、書きたいことを素直に丁寧に書いてきたつもりですが、ときにはもっと本音を語りたいところを抑えることも必要だったのです。

でもこのエッセイ集の執筆をするときには、そのルールをいったん脇に置いて、率直に事実と自分に向き合いながら書くことに専念しました。だからずいぶんパーソナルな内容になってしまったけれど、これは私自身にとっても、これまでの足跡を振り返る良い機会となりました。

私のしている仕事は一見、派手で特別なもののように思われるかもしれませんが、私の人生に起こっていることはきっと誰にでもあるような山と谷の繰り返しで、私が日々考えていることはどんな人にも心当たりのあるような気持ちばかりだと思います。恋もすれば、恥もかくし、大きく出たり、弱気になったり、成功も失敗もする。良いところダメなところも、正直に書き出してみることで、それを読んだ人が自分に照らし合わせて笑ったりどきっとしたり、一緒に流れを感じてくれるといいなと思いました。それが共感でも、たとえば反感でもいいのです。だってエッセイというのは筆者の出来事や感情を共有した読者が、そこから「私も！」や「違う！」を感じることで、自分が何を好きで何が嫌いなのか改めて知ることができるから面白いんだと、私は思うから。

そんな中で、本当は全然遠いはずの他人の人生と価値観の中に、どこか自分と似たところや重なる部分を見つけたときには、なんだかかわからないけど沸々と勇気が湧いてくる気がして、そこがエッセイの最大の魅力だと私は思うのです。もしも私の本が、誰かのそういう存在になれたら、すごくいいなあと思います。

私のことをよく知って下さっている方にも、そうでない方にも、読んでいただけたら良いなと思って、一生懸命作りました。  
いろいろと無理をお願いしてまいりましたが、ころよく協力してくださったスタッフのみなさんに心から感謝しています。おかげで最高にあたたかくて、かわいい本になりました。  
本当に、宝物です。

\* maaya \*